

継続した社会貢献活動を通じ、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指して 第13回「TOTO水環境基金」助成団体を決定

—国内7団体、海外4団体・計1,812万円を助成—

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:喜多村 円)は、このたび第13回「TOTO水環境基金」の助成団体を決定しました。国内の活動に関しては、前回に引き続き、最長3年間の助成期間とし、助成団体のニーズに合わせ、より安定した支援を行います。

厳正なる選考を重ねた結果、**国内7団体、海外4団体の計11団体に1,812万円を助成することを決定しました。**これにより、2005年の設立以来、のべ250団体に対して3億円を超える助成を行うことになりました。



修理された井戸を使う子どもたち
(カンボジア・第12回助成プロジェクト)

「TOTO水環境基金」では、地域社会の課題解決に取り組むNPO団体・NGO団体を助成することで、広く社会貢献活動に取り組んでいます。特に海外では、途上国における衛生的な生活環境づくり、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等など様々な課題解決に取り組む団体に助成することで、持続可能な世界の実現に貢献しています。これまで活動を行った地域の方々からは、「家に井戸がないので学校の井戸の水が使えるのがうれしい」、「安心して水が飲める」などの声が寄せられています。また、助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄の事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加するとともに、一般市民の方々への参加も呼びかけるといった「協働」にも力を入れています。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、「TOTOグローバル環境ビジョン^(*)」のもと、地域社会の発展と地球環境の保護に貢献する活動を積極的に推進し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。

■ 第12回助成団体の活動例

<海外>



団体名 : 公益財団法人 プランインターナショナルジャパン

活動地域 : 51 カ国

【団体紹介・活動概要】

子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために活動を展開する、国連に公認・登録された国際 NGO。1937 年創立、日本事務所は 1983 年に設立。
アジア・アフリカ・中南米の途上国 51 カ国で、「教育」「保健」「水と衛生」など 8 つの分野の改善を重視して支援を行なっている。
ベトナム・コントウン省においては、衛生習慣を身につけるための参加型トレーニングの実施およびトイレを設置。住民が自分たちで家庭用トイレを設置し、衛生的な環境を整備していくことを目指している。

<国内>



団体名 : NPO 法人 森のライフスタイル

活動地域 : 長野県、千葉県、東京都

【団体紹介・活動概要】

長野県をはじめ、千葉県、東京都で森づくりに取り組むNPO。「市民や企業による森づくりプロジェクト」「母と子の野外体験プロジェクト」「企業の木づかい運動プロジェクト」を3つの柱として活動を展開。
東日本大震災の津波による塩害により失われた千葉県の蓮沼殿下海岸防災林の再生に取り組んでおり、これまでに約3万9,000本の植林と3.9haの下草刈り活動を行なっている。

■ 第 13 回助成団体の所在地



● 第13回 水環境基金助成団体の所在地



■ 助成団体交流会について

「TOTO水環境基金」では、助成団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、2013年度より「助成団体交流会」を開催しています。

今年は3月9日(金)に、TOTOミュージアム(福岡県・北九州市)で開催します。助成が決定した団体への説明会、第12回の助成団体(2団体)による事例発表、懇親会等で交流を図る予定です。



過去の「助成団体交流会」の様子

■ 第 13 回「TOTO水環境基金」助成団体一覧

	団体名	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2018年度	2019年度	2020年度
1	特定非営利活動法人 リアスの森応援隊	豊かな海と森を作る 自伐林業家の養成	宮城県	気仙沼市において、豊かな海を育むことにもつながる森林整備を行う人材を継続的に養成し、森林保全、生業支援、担い手の移住・定住促進を目的として2015年に設立。当地において、植林は積極的に行われているものの、林業を生業とする人が激減していることから、森林整備が全く行き届いていない。そこで自伐林業家養成塾「森のアカデミー」を開講して自伐林業家を育成しており、今までに500以上の卒業生を輩出、150人以上が自伐林業家として地域の森林整備にあたっている。引き続き人材育成と森林保全活動を推進するとともに、多くの人が森林に触れ合いながら、森林整備の必要性を啓蒙するイベントを開催する。	○	○	○

	団体名	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2018年度	2019年度	2020年度
2	御前山ダム環境センター	御前山ビオトープ及び御前山ダム周辺における希少動植物の保全・育成活動と環境整備	茨城県	御前山の豊かな自然環境の維持・保全を目指し、一般市民を対象としたビオトープづくりを始めとする環境対策と地域の幅広い取り組みを連携させ、総合的・持続的に進めることによって地域の振興に貢献することを目的に2009年に設立。希少動植物の保全・育成活動、一般市民を迎えてエノキの植栽、水源林の保全、地元小・中学生との自然観察会等を実施している。約250本のヤマザクラの植栽、希少動植物の保全・育成、御前山ダム周辺の水源林の保全活動を行う。	○	—	—
3	ほたる野を守るNORAの会	「きみとぼくの心の故郷を次世代に！」田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に！	千葉県	活動地域である習志野市実籾(みもみ)地区は、かつては通称「ほたる野」と呼ばれ、初夏には平家ほたるが乱舞する斜面林を有する里山であった。良好な自然環境にしか生息できない「ほたる」をこの里山のシンボルとし、将来に向けて絶滅させないよう、1992年に団体を設立して環境保護を開始した。里山を守るため、高齢化地主の稲作業を支え、無農薬稲作を行い、親子・小学生との米作り体験(田植え・稲刈り・餅つき)やほたるの自然回帰活動・食育活動によって自然を感じてもらい、自然環境を次世代に引き継いでいく。里山の現状把握(生態系調査・水質調査)、環境維持の指標作成、ほたるの自然回帰のため実験場の整備等の活動を推進する。	○	○	○
4	一般社団法人サーフライダーファウンデーションジャパン	海岸のビーチクリーンを通じた水環境への意識向上	神奈川県	団体の母体であるサーフライダーファウンデーションは、カリフォルニアのサーファー達が自主的に始めたサーフポイントの水質調査活動がルーツとなり、現在世界23カ国で活動、約25万人のメンバーを有する国際環境NGO。日本では1993年から活動を開始し、2011年に団体設立。主に湘南エリアを中心に、海に関連するイベント・展示会等に参加して海岸の環境美化についての啓蒙活動、ビーチクリーンを実施している。一年を通して定期的な「ビーチクリーン&海の学び」を実施することにより、海岸環境の改善と次世代につながる環境教育を促進する。	○	○	○
5	特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議	小網代の森「やしゃぶし谷戸」におけるホタル舞う水辺環境の創出	神奈川県	三浦半島「小網代の森」は、森の中央にある谷に沿って流れる「浦の川」の集水域として、森林、湿地、干潟および海へとつながる一連の自然が残されており、関東地方で唯一の自然環境と言われている。当地の保全活用を進めるため2005年に団体設立、県・三浦市・かながわトラストみどり財団と協働して湿地の保全や植生回復などの活動を推進している。活動の成果として、絶滅危惧種や湿原植生の回復が確認できるようになってきている。小網代の森の北部に位置する「やしゃぶし谷戸」エリアにおいて、ゲンジボタル・ヘイケボタルの生息範囲の拡大を図るとともに、基底流出を増やす工夫を各所で実施することによって、地下水涵養による湿原環境の維持等を進めていく。	○	○	○
6	大阪府立園芸高等学校ハニービーサイエンスクラブ	準用河川江原川(大阪府池田市)の川ゴミの回収	大阪府	近年、海洋のプラスチック汚染が問題となっているが、日本沿岸の海洋ゴミの50%は川ゴミが原因であるといわれている。しかしながら、ほとんどの人はその実態を知らず、自分たちには関係がないと思っている。そこで、本校敷地内を流れている準用河川江原川において、一年を通じて全ての川ゴミを回収・分類し、データとしてまとめ、私達の身近を流れる川がゴミで汚れている事態を明らかにする。研究結果を公表し、海洋汚染の原因の一つが私達である(川ゴミを出している)ことを知らしめ、河川の浄化実践活動(ゴミ回収・広報)につなげる。	○	—	—

	団体名	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2018年度	2019年度	2020年度
7	笹尾川水辺の楽校運営協議会	水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と水環境啓発運動	福岡県	<p>笹尾川は昔、貴重な舟運水路の一部として長い歴史を持つと同時に、北九州市の水道水源になっており、河川の環境を保全し、水質の保全・向上を図っていくことが重要である。そのため、当団体では、自然と触れあい、水辺と関わる親水施設および環境学習の場として「笹尾川水辺の楽校」を開講した。</p> <p>河川の維持管理としての除草・清掃および環境整備の一環として芝谷橋の橋脚への壁画作成を行う。また、現地でのカヌー体験、水環境教育等を通して、参加した地域の子ども、大人の川への関心を高めることにより、自分たちの手で河川を大事にし、河川環境を守ろうという心を育てる。</p>	○	○	○
8	特定非営利活動法人 ハロハロ	沿岸水環境の保全のためのマングローブ植樹とごみ対策事業	フィリピン共和国	<p>フィリピン全土において、自立支援のための廃材を活用した雑貨製作・流通販売に端を発し、地域を変える「人」と「組織」の育成に取組むために2012年に設立。JICAや日本国際協力財団の支援のもと、貧困地域の生計向上事業で成果を収め、現在では、教育支援としての幼稚園運営や奨学金制度、啓発活動としての環境美化等に事業を拡大し、課題の解決に取り組んでいる。</p> <p>沿岸環境の悪化により住民の収入源である海藻事業が破綻したアルマー島において、マングローブ植樹および地域住民自らが中心となってゴミを回収・処理を行なっていく持続可能なシステムを構築し、環境保全による生計向上を図る。</p>	○	-	-
9	認定特定非営利活動法人 難民を助ける会	山村の女子児童の健康を守る、水とトイレのプロジェクト	パキスタン・イスラム共和国	<p>インドシナ難民を支援するために、政治・思想・宗教に偏らない市民団体として1979年に設立。緊急・人道支援を行なう日本生まれの国際NGOとして、これまでに約60の国や地域で活動を行っている。1997年には、地雷禁止国際キャンペーンの主要メンバーとしてノーベル平和賞を共同受賞している。</p> <p>重点分野である衛生事業において、パキスタンの公立女子小学校の衛生設備建設等に取り組んでおり、トイレの設置等を行うことで、女子児童が尊厳をもって学校生活を送ることができる環境を整える。</p>	○	-	-
10	認定特定非営利活動法人 ICA文化事業協会	インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業	インド	<p>1970年に任意団体として活動を開始。ICA本部(カナダ)および世界30カ国のメンバー団体と協力し、住民主体の地域開発、復興、貧困削減等の支援活動を実施しており、活動国は22カ国以上にわたる。</p> <p>今回の活動地であるインド北西部において、食料不足問題の改善に向けた乾燥地農業を指導するJICAとの協働事業を開始する予定であるが、同地区において、飲料水問題も早急に解決を要する課題であるため、古井戸の再生を行い、女性の労働軽減、家庭菜園の実施、衛生面の向上を図る。</p>	○	-	-
11	認定特定非営利活動法人 道普請人	ケニア自然水源の衛生的な利用環境整備と衛生教育	ケニア共和国	<p>「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決する」ことの実現を目指し、2007年に設立。「土のう工法」による道づくりを中心に、エンジニアとしての技術開発、現地住民への技術移転、定着化を世界各地で工夫をしながら進めている。活動および技術支援で関与している国は25カ国にわたり、整備した道は総延長156.35kmにおよぶ。道づくりに併せて現地の生活環境改善にも取り組んでおり、適切な水源保全がなされていないケニアにおいて、人と動物を分離した水源整備、集水性を高めるための植樹、住民への衛生教育を行うことにより、保健衛生上の課題解決を図る。</p>	○	-	-

■TOTO水環境基金助成金の算出方法について

社会全体との協働を通じた環境貢献を目指して、ステークホルダーの皆様の環境貢献への関わりが増すほど、助成金が増えていく仕組みを展開しています。



■「お客様」との関わり: 節水商品による節水効果について

お客様に前年度購入いただいたTOTOの節水商品について、旧タイプの商品と比較した際の「節水効果」を金額に換算し、助成金算出のベースとします。

■これまでの「TOTO水環境基金」助成活動の成果について

<国内>

第1回～12回で、のべ207団体、40の都道府県で助成実施

活動成果 (第7回～11回累計)

森林整備・植樹 : 植えた植物 27,407本
整備した面積 42ha
清掃活動 : 収集したゴミの量 522.9t
生物保護 : 駆除した外来種 315,394匹
除去した外来種藻類 3,025Kg
ボランティア活動参加人数 : 66,235人
(うちTOTOグループ社員 6,909人)

<海外>

第3回～12回で、のべ32団体、13ヶ国で助成実施

活動成果 (第7回～11回累計)

衛生設備 : トイレ設置・修理 38箇所
生活用水 : 給水設備設置 534基
井戸設置・修理 42箇所
環境保全 : 植えた植物 12,479本
ほか衛生教育の実施など
総受益者数 : 49,413人

「TOTO水環境基金」ホームページ

<https://jp.toto.com/company/environment/mizukikin/index.htm>



TOTOグローバル環境ビジョン (※)

これまでの環境活動をよりグローバルに進化させるために策定したグローバル共通のビジョン。各国各地域の環境問題や社会課題と向き合い、6つのテーマで環境へのとりくみを推進し、創立以来、長年にわたり培ってきた『水』に関するノウハウを生かして、さらなる環境貢献へと発展させていきます。

詳しくは下記URLをご覧ください

<https://jp.toto.com/company/environment/vision/index.htm>

「大阪府立園芸高等学校ハニービーサイエンスクラブ」の助成辞退により、上記リリース内容から以下が変更になっております。(2018年3月16日現在)

- ・国内助成団体数: 7 団体→6 団体
- ・助成金額 : 1,812 万円→1,752 万円
- ・助成団体数計 : 11 団体→10 団体
- ・のべ助成団体数: 250 団体→249 団体

以上に関するお問い合わせは下記までお願いします。

<TOTO 広報部>

- 本社広報グループ 担当: 山崎明子(やまさきあきこ)、松竹(まつたけ)、坂村(さかむら)
北九州市小倉北区中島 2-1-1 TEL: 093(951)2901
- 東京広報グループ 担当: 山崎千聡(やまざきちさと)、桑原(くわはら)
東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング 24 階 TEL: 03(6836)2025

<お客様からの問合せ先> お客様相談室 TEL: 0120(03)1010

<TOTO ホームページ> <https://jp.toto.com/>

<水まわりのまめ知識「ティドビット」> <https://jp.toto.com/tips/tidbit/index.htm>

このニュースリリースは、北九州経済金融記者クラブに投函しているほか、TOTO のホームページでもご覧いただけます。